

6月3日

「いのりの日」



仁田団地内の「雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼之碑 献花所」には多くの人が訪れ、亡くなられた方々の冥福を祈りました。

6月3日は「いのりの日」です。平成3年6月3日に発生した大火砕流惨事から19年が経過しました。大火砕流が発生した午後4時8分には、市内全域にサイレンが吹鳴され、犠牲となられた方々の冥福を祈るため、多くの人が黙とうを行いました。

また、犠牲者の冥福を祈るとともに、噴火災害の体験と教訓を継承するための行事が市内各所で行われました。



「定点」では、報道機関関係者などの御霊に弔意を表しました。



「北上木場農業研修所跡」では、ご遺族や同郷の人たちが災害発生の日午後4時8分に黙とうを捧げました。



平成町の「消防殉職者の碑」では消防団員が同僚の御霊に弔意を表しました。



雲仙岳災害記念館での「いのりの灯」では、子どもたち手作りのキャンドルに火を灯し、犠牲者の冥福を祈りました。



第五小学校でのいのりの日集会



第三中学校での災害体験講話

編集後記

▼今年の「6月3日」いのりの日。仁田団地第一公園内の雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼之碑の前に、300名を越す方々がそとと白菊を手向けられました。来年のこの日は、43名もの尊い命を奪った、あの大火砕流惨事からまる20年を迎えます。▼今年の「いのりの日」の追悼行事に関わる中で、被災地の方々、報道関係者、市職員から「災害体験の風化」という言葉を多く耳にしました。1年後にやってくる「災害20年」を、皆、自ずと強く意識し始めているようにも思えます。▼普賢岳が突如の噴火を始めた平成2年に生まれた子どもたちが今年、20歳を迎えています。それより若い世代に噴火の体験はなく、体験者の高齢化も進みます。時として牙をむく火山とこれからもずっと共存する運命にある島原市。災害体験、教訓を語り継ぐ〈意義〉を再確認しました。

島原市の人口

	6月1日現在	(前月比)
人口	48,888人	(+10)
男	22,776人	(+8)
女	26,112人	(+2)
世帯数	18,739世帯	(+14)
出生	28件	死亡 40件
転入	70件	転出 57件

※人口、世帯数は住民基本台帳による